

広報

ただみ

11
2016 月号
No. 558
平成28年11月10日



秋晴れの下一斉にスタート チームの絆をゴールまで届ける



今月の表紙

今月の表紙は10月16日に開催された第54回只見町駅伝競走大会スタートの写真です。各選手がチームのタスキを肩に掛ける瞬間、タスキの向こう側に見えたものは、今までの厳しい練習や仲間との絆でした。その思いを背負って選手たちは一斉にスタートしていきました。

【関連記事 9ページ】

<特集>

- 只見町移住・定住促進対策……………2～5
- うまいもんまつり……………6～7

<News&flash>

- 3小学校「体育交歓会」/
第54回只見町駅伝競走大会……………8～11

<町の話>

- たぶん100人手刈り/
全国ほんもの体験フォーラム……………12～13

只見町の人口減少問題を考える 只見町「移住・定住促進」対策

今月号の特集は、只見町が抱える少子高齢化による人口減少問題について、町はどのような対策と支援を行っているのかご紹介します。

少子高齢化や過疎化…

只見の未来のために

今やるべきことを!



◆只見町の現状と課題

日本では少子高齢化による人口減少が社会問題となっており、只見町もこの問題に直面しています。

町の人口は、昭和30年（13,106人）の田子倉ダム建設による人口をピークに減少し、平成27年には4,670人となりました。これは、昭和40年と比較すると半数を下回っていることが分かります。背景には、急激な少子化や若い世代の未婚問題、進学・就職などによる転出超過傾向などが挙げられ、町の人口ピラミッドを見ると20歳代が他の年代と比較して特に少なく、生産年齢人口の減少が指摘されています。集落においては、人口減少

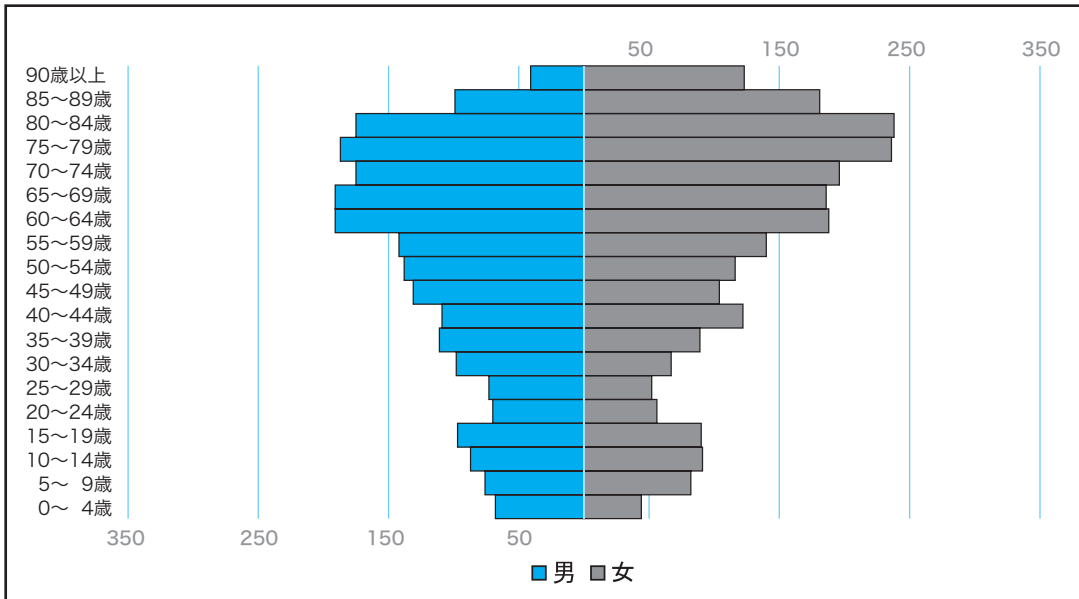
による活力や相互扶助意識の低下から、集落としての機能維持が困難となり、耕作放棄地の拡大や放置されたままの危険な空き家が増えることが予想され、町全体では、労働力の不足により産業や経済への影響が問題視されています。

このような現状や問題を踏まえ、町では新しい人の流れをつくることや、安定した雇用の創出、若い世代の結婚・出産・子育てを考え、安心して暮らせる町づくりを進めていきます。今のペースで将来人口の試算をすると、平成52年には2,660人になると示されていますが、各種施策を展開していくことで人口減少を抑制し、「3,000人台」を目指すこととされています。

	総人口 (人)	世帯数	平均 世帯人員	区分(人)		
				年少人口	生産年齢人口	老年人口
昭和40年	9,661	2,080	4.64	—	—	—
昭和50年	7,759	2,031	3.82	—	—	—
昭和60年	6,731	2,054	3.28	1,189	4,295	1,247
平成7年	5,804	1,929	3.01	809	3,306	1,689
平成17年	5,284	1,915	2.76	590	2,599	2,095
平成27年	4,670	1,895	2.46	448	2,184	2,028

▲只見町の総人口・世帯数・年齢3区分別人口の年代別割合【只見町人口ビジョン参照】
※年齢3区分/年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)、老年人口(65歳以上)

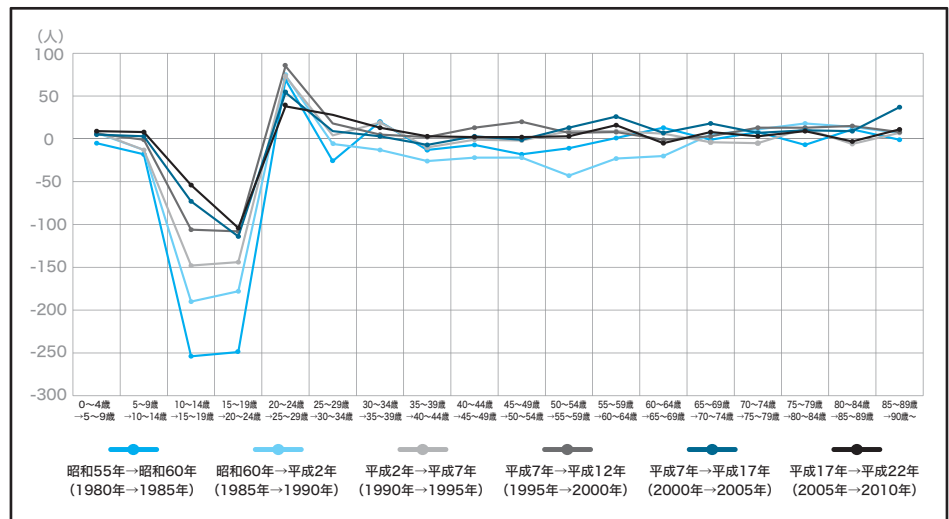
◆只見町人口ピラミッド(平成27年1月時点)【只見町人口ビジョンより】



◀最も人口が多い年代は、男性が60歳代、女性は80～84歳です。逆に最も人口が少ない年代は男女ともに0～4歳と20歳代となっており、0～4歳が少ないということは「少子化」を示しており、20歳代が少ないということは生産年齢人口の割合が減っていることを示しています。

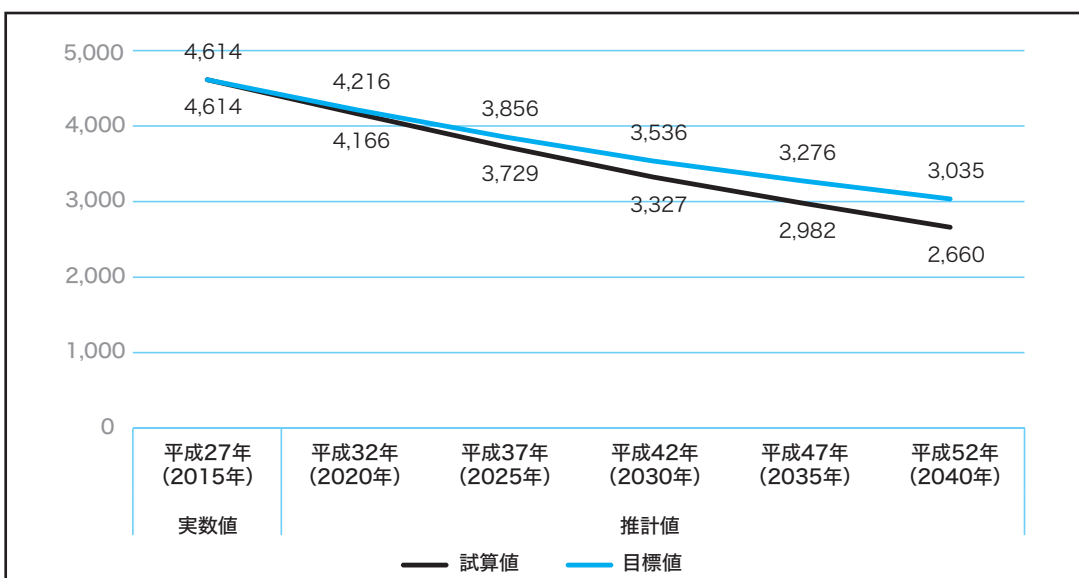
◆転入・転出の推移【只見町人口ビジョンより】

	転入	転出	増減
平成7年	218	228	-10
平成8年	358	266	92
平成9年	178	176	2
平成10年	137	180	-43
平成11年	157	213	-56
平成12年	183	206	-23
平成13年	190	161	29
平成14年	148	162	-14
平成15年	114	150	-36
平成16年	148	197	-49
平成17年	154	150	4
平成18年	188	181	7
平成19年	141	145	-4
平成20年	117	147	-30
平成21年	113	119	-6
平成22年	132	163	-31
平成23年	127	138	-11
平成24年	144	166	-22
平成25年	116	164	-48
平成26年	116	177	-61



▲平成19年以降、一貫して転出超過となっており、15～19歳、20～24歳は高校・大学の進学で転出が多くなり、25～29歳にかけての転入(Uターン含む)が顕著です。

◆人口の将来展望【只見町人口ビジョンより】



◀只見町の将来人口は、現在のペースで試算すると、平成52年(2040年)には2,660人になると示されています。しかし、出生率の上昇や転出の多い若者世代の定住、U・Iターンによる移住・定住などを促進することで、3,035人になることを目指し、人口減少のペースを抑制していきます。

移住・定住
就職・起業支援



観光商工課 商工係

担当者:主査 矢沢 裕也

お問合せ先 ☎0241-82-5240

✉syoukou@town.tadami.lg.jp

【担当者より】

移住・定住や就職・雇用・起業などの支援を準備しております。U・Iターン希望者などの情報がありましたらお知らせ下さい。

U・Iターン等促進助成金(移住・定住就業者向け支援)

①U・Iターン助成金

原則60歳未満でU・Iターンし起業・就業した方で只見町に住所を有し、3年以上居住の意志のある方に10万円を助成しています。

②新規学卒定住助成金

新規学卒後、只見町に居住及び住所を有し起業・就業した方に10万円を助成しています。

雇用促進推奨助成金(町内事業者向け支援)

①雇用奨励助成金

正社員を雇用し、平成28年4月1日より正規雇用従業員数が増えていると認められる事業主に20万円を助成しています。

②離職雇用奨励助成金

前事業主都合による離職者を、3ヶ月以内に正社員で雇用した事業主に30万円を助成しています。

只見町宿泊・飲食事業者持続化創業支援事業補助金

町内で民宿、旅館、飲食業を営む方又はその創業を希望する方に対し、収容者増又は客室増にかかる造作等、衛生環境の整備及び利用者増にかかる造作等の一部を助成しています。

只見町産業振興対策事業補助金

産業おこし支援対策事業、6次産業起業家応援事業について、事業費の一部を助成しています。

無料職業紹介所

町内などの求人情報や相談を受ける紹介所を設けておりますので、ご利用の際はお問合せ下さい。

町
の
取
り
組
み

現在町内には、田舎暮らしを求め移住されたIターンの方や、町外に進学し卒業して只見町に戻ってくるUターンの方がいます。このような方々が増えることは、少子高齢化により人口減少が進む只見町にとって歓迎すべきことであり、新たな視点での地域の魅力発見や空き家・耕作放棄地対策、新たな労働力など、集落活性化を生み出す貴重な存在になるものと期待できます。

そのため町では、U・Iターンの受け入れを積極的に進めるため、就職・起業・就農・子育て・住宅の視点で町独自の支援事業を実施しています。

特集 只見町の人口減少問題を考える
平成28年度只見町「移住・定住促進」対策

子育て支援



保健福祉課

担当者:主任保健師
菅野 聖子

お問合せ先

☎0241-84-7005

✉hfk@town.tadami.lg.jp

【担当者より】

妊娠・出産・子育て全般に

関するサポートを行っています。お気軽にお問合せ下さい。

只見町妊婦及び乳児健康診査助成事業

妊婦及び乳児健康診査費用を助成しています。

只見町子宝祝金

要件に該当する場合、支給しています。

(第1子:10万円、第2子:20万円、第3子:30万円)

保育料軽減対策事業

子育て世帯の経済的支援として国の定める保育料基準額から最大7割の低減を実施しています。

就農支援



農林振興課 農政係

担当者:主事 大竹 隆二
お問合せ先

☎0241-82-5230

✉nourin@town.tadami.lg.jp

【担当者より】

只見町で新規就農を目指す

方を募集しております。広報ただみ8月号(No.555)にも詳しく紹介していますのでご覧下さい。

只見町新規農業参入者支援事業

要件に該当する場合、定額研修費や施設・機械導入経費の一部、借地料など一定期間助成しています。

只見町農業振興事業 (重点振興作物新規栽培者支援)

町の重点振興作物の新規栽培に係る苗・資材等の初期経費について、事業費の一部を助成しています。

住宅支援



環境整備課 地域整備係

担当者:主査 目黒 健太

お問合せ先

☎0241-82-5270

✉tiiki@town.tadami.lg.jp

【担当者より】

移住される方は特に住宅という大きな問題を抱えています。そこで町では、定住希望者が新たな住居を確保するまでの期間の住宅提供や、空き家を改修する場合は費用の一部を支援しています。

只見町空き家改修事業

空き家を改修し定住する方へ空き家改修に係る費用の一部を助成しています。

只見町定住等促進住宅

町に定住を希望する方へ、安定して定住できる新たな住居を確保するまでの間(原則3年)住宅を提供しています。

今後について

上記のように町では独自の支援事業を実施しておりますので、活用を検討したいという方は担当課までご連絡・ご相談下さい。

また、今回ご紹介できませんでしたが、町では他にも様々な角度から事業を実施しております。例えば教育委員会では只見高校の振興対策として「山村教育留学制度」など充実した支援を実施し、只見高校の永続的存続の基盤づくりを推進し、町に高校が無いことによる進学転出を防いでいます。そして明和振興センターでは、地域の空き家対策として「空き家バンク」の設立を目指し、取り組んでいます。

以上のように只見町の抱える人口減少問題に立ち向かうために、今やるべきことを実施し、町の未来の為に今後も取り組んでいきます。



▲会場が盛り上がった「鏡五郎」歌謡ショー



▲子ども達と一緒にプナリんの歌&体操を披露する「松下恵美さん(プナリんの歌/作詞・歌唱担当)」(左)と「岡田麻紀さん(プナりん体操/振付担当)」(中)



▲(写真/はぎの会)可憐な舞を披露する踊りの会の皆さん



▲「風とロック」で披露したオリジナル曲を歌う大竹涼華さん



▲中学生ながら素晴らしい歌唱力を披露する渡部美依さん



▲子ども達に大人気だった「バルーンみなみ」ショー

自然首都
只見
Topic.1

只見町と新潟県三条市で食の交流出店

自然首都・只見 水の郷うまいもんまつり

10月1日〜2日、只見駅前特設会場で「水の郷うまいもんまつり」が開催され、多彩な食と催しを楽しみに、2日間で約3,500人が来場し賑わいました。

今年は、国道289号八十里越区間で結ばれる新潟県三条市のイベント「三条マルシェ」ごつた市@ホコテン」が同日開催となり、両市町を代表するイベントに交互に出店し、食の交流を行いました。只見町からは「ヤマサ商店」「味付マントンケバブカフェ」「只見町PRブース」が三条市に出店し、三条市からは「こくわカレー」「森の工房くま(笹だんごなど)」「八木茶屋(山塩ラーメン)」が只見町へ出店されました。

うまいもんまつり会場内は、そばなどの郷土料理を始め県内外から様々なうまいもんが集まり、来場者は各店舗を巡りながら舌鼓を打ち、ステージイベントを楽しんでいました。



▲三条マルシェに交流出店したヤマサ商店



▲様々な食が堪能できちゃううまいもんまつり



▲美味しい料理と笑顔を提供した只見町商工会女性部の皆さん

自然首都
只見
Topic.2

湖岸マラソン同時開催

第5回トリムウォーク&トリムラン



特別ゲスト



▲北京オリンピックなどで活躍された元陸上選手「小林祐梨子」さん



▲駒澤大学で箱根駅伝を走り、現在日清食品で現役を続ける会津若松出身の「安西秀幸」さん



▲競技種目5kmのスタートを切る選手の皆さん



▲(写真/トリム 10km 競技の表彰) 上位者に盾と賞状が贈られました

【マラソン部門 優勝者】

- ◆ 2 km 小学生男子
五十嵐 零生(只見町)
- ◆ 2 km 小学生女子
浅井 紗愛(魚沼市)
- ◆ 2 km 中学生女子
佐藤 天音(魚沼市)
- ◆ 2 km 高校・一般男子
青砥 正典(矢祭町)
- ◆ 2 km 高校・一般女子
庄司 和江(日立市)
- ◆ 5 km 小学生男子
酒井 湧司(只見町)
- ◆ 5 km 小学生女子
矢沢 栞 (只見町)
- ◆ 5 km 中学生男子
菅家 尚真(只見町)
- ◆ 5 km 高校・一般男子
鈴木 翔 (只見町)
- ◆ 5 km 高校・一般女子
齋藤 陽子(只見町)
- ◆ 10 km 小学生男子
横山 皓大(只見町)
- ◆ 10 km 中学生男子
浅井 珠璃(魚沼市)
- ◆ 10 km 中学生女子
大島 芽依(魚沼市)
- ◆ 10 km 高校・一般男子
大島 誠 (魚沼市)
- ◆ 10 km 高校・一般女子
柳田 祥子(郡山市)

【トリム部門 総合優勝者】

- ◆ 2 km
齋藤 心華(会津若松市)
- ◆ 5 km
齋藤 陽子(只見町)
- ◆ 10 km
星 綾音 (只見町)
- ◆ 仮装特別賞
星 綾音 (只見町)
菊地 愛 (只見町)

10月2日、うまいもんまつりと同会場で「トリムウォーク&トリムラン」が開催され、今年から湖岸マラソンが同大会に加わり、新たなコースで行われました。

当日は爽やかな秋晴れの中、約160人の参加者がマラソン部門とトリム部門に分かれ、特別ゲストと一緒に走ったり、各々のペースで歩きました。

大会を終えた参加者の皆さんは、うまいもんまつりで疲れを癒し、スポーツと食の秋を楽しんでいました。

「第46回 只見町小学校体育交歓会」開催

10月5日、町下運動広場を会場に「小学校体育交歓会」が行われ、只見・朝日・明和小学校の5・6年生が参加しました。

児童たちは、練習を重ねてきた成果を十分に発揮し、男子80Mハードルでは3名が大会記録を更新しました。

この日は天候にも恵まれ、多くの保護者の皆さんが会場を訪れ、頑張る子ども達を一生懸命に応援していました。大会の入賞記録は下記のとおりです。



▲1位～3位までが大会新記録の好タイムだった男子80mハードル



▲大会新記録138cmに挑戦した大竹優真くん(明和小)



▲最後まで混戦だった女子800m



▲快足を披露した女子100m

第46回 只見町小学校体育交歓会 入賞記録一覧表(3位まで)

	種目	1000m(男子) 800m(女子)	100m	80mハードル	4×100m リレー	走り幅跳び	走り高跳び	ソフトボール投げ
男 子	1	星 竜之介(朝・6) 3分41秒3	山内 大暉(明・6) 14秒8	横山 皓大(朝・6) 14秒7(大会新)	明和A 1分02秒0	鈴木 詠大(只・5) 357cm	大竹 優真(明・6) 130cm	酒井 悠来(只・6) 51m55cm
	2	鈴木 詠大(只・5) 3分42秒8	菊地 新大(明・5) 15秒6	新國 楓(只・6) 15秒0(大会新)	朝日A 1分02秒9	菊地 新大(明・5) 353cm	渡部 怜央(朝・6) 128cm	吉津 壘(朝・6) 46m57cm
	3	菊地 結雅(明・5) 3分43秒0	菅家 真心(朝・6) 15秒7	浅野 礼(明・6) 16秒4(大会新)	只見A 1分04秒1	菊地 琉巧(明・6) 346cm	横山 皓大(朝・6) 115cm	山内 友斗(明・6) 44m71cm
女 子	1	三瓶 楓(明・6) 2分59秒8	山田 夢空(朝・5) 15秒8	橋川 綾乃(明・6) 16秒0	朝日 1分06秒0	山田 夢空(朝・5) 356cm	大竹 未桜(只・5) 113cm	目黒 希(朝・6) 36m34cm
	2	鈴木 来菜(只・6) 3分01秒2	梁取 もも(明・5) 16秒6	大竹 未桜(只・5) 16秒4	明和A 1分06秒8	鈴木 来菜(只・6) 338cm	渡部 茉莉(朝・6) 113cm	梁取 もも(明・5) 32m10cm
	3	山中 美紅(朝・5) 3分02秒5	吉津 晴香(朝・6) 17秒1	平野 結菜(明・6) 16秒9	只見 1分07秒9	山本 愛佳(明・5) 302cm	山中 美紅(朝・5) 108cm	五十嵐 陽菜(只・5) 31m95cm

※氏名(学校名・学年)です。なお、学校名は只/只見小学校、朝/朝日小学校、明/明和小学校の略です。

町内外から多くのチームが参加
第54回 只見町駅伝競走大会



▲午前10時、町下の教育委員会前を一齐にスタートする選手の皆さん

秋晴れとなった10月16日、只見町体育協会などが主催する「第54回只見町駅伝競走大会」が行われ、中学生から大人まで町内外から37チームが参加し、日頃鍛えた健脚を競いあいました。

選手の皆さんは、教育委員会前から熊倉地区や小林地区までの折り返しコースをタスキで繋ぎ、沿道では多くの町民の皆さんが声援を送っていました。そして、全てのチームが怪我もなくゴールすることができました。

ゴール後の会場では、只見町食生活改善推進員や只見ランナース、只見高校陸上部の皆さんが用意した700杯の「とん汁」が振る舞われ、選手達は疲れた体を癒していました。

閉会式で鈴木好行体育協会会長は、「只見町の駅伝大会は、走る人やジョギングする人、または歩く人がいるユニークな大会ですが、来年も多くのチームに参加して欲しいと思います」と挨拶され、表彰式で入賞されたチームや選手に賞状を手渡されました。今大会の成績は下記のとおりです。

大会成績（上位3位まで）

◆中学生男子の部（2チームのみ）

- 1位 只見中学校
- 2位 南会津中学校駅伝部

◆中学校女子の部

- 1位 若松四中
- 2位 只見中学校
- 3位 南会津中バレー

◆一般女子の部

- 1位 南会津高校B
- 2位 南郷レディース
- 3位 うるわしレディース

◆男女混成の部

- 1位 下郷町B
- 2位 下郷町A
- 3位 南会津高校A

◆一般男子の部

- 1位 南会津高校C
- 2位 会津中央病院Aチーム
- 3位 JAあいづ倶楽部B



▲笑顔でゴールテープを切る角田選手（明和走遊会）



▲（写真／長浜唱平）応援するこぶし苑の皆さんと、それに応える鈴木選手（只見ランナース）

大人気の「とん汁」コーナー



▲只見中学生にも大人気だったとん汁



▲只見町食生活改善推進員、只見ランナース、只見高校陸上部の皆さん

改良促進を福島県へ要望

県道小林・館の川線改良促進期成同盟会は10月14日、福島県庁を訪れ、同県道の改良促進についての要望活動を行いました。

今回の要望は、9月28日に開かれた同会総会内で決定した「小林〜亀岡間の未改良区間の整備促進」、「熊倉から荒島間のスノーシェッドの整備」、「荒島〜小川間の冬期安全対策」が盛り込まれた内容で、会長の目黒町長から島副知事に要望書が手渡されました。

県は、「小林〜亀岡間は急峻で抜本的な改良は難しいが、安全対策を検討している。加速ある整備を進める為予算確保に努める」とし、目黒町長は「早急な実現をお願いしたい」と要望しました。



▲要望書を手渡す目黒町長(左)と島副知事(右)

しあわせ金婚夫婦表彰式

10月20日、季の郷湯ら里で福島民報社と県老人クラブ連合会主催の「しあわせ金婚夫婦表彰式」が行われ、結婚して50年を迎える町内19組のご夫婦が参加しました。この表彰式は、社会の発展に貢献されたご夫婦の金婚式を県民挙げて祝福するもので、今年で30回目の開催です。

表彰式では、小沼武夫町老人クラブ連合会長から各地区代表3組に賞状とおしどり金メダルなどが伝達され、受賞者代表謝辞では、目黒彰一・ツヤ子夫妻が「町の発展の為に生ある限り精進したい」と決意を述べられました。めでたく金婚式を迎えられた皆様、誠におめでとうございます。



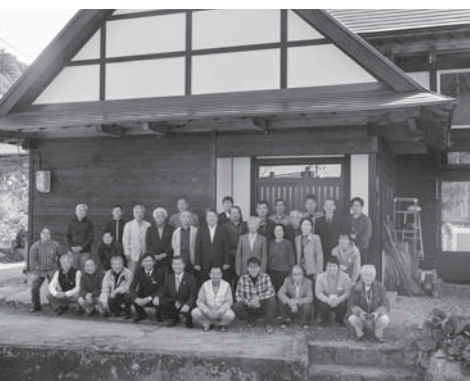
▲小沼会長から賞状を受けとる矢沢純也・宏江夫妻

布沢「緑樹の家」お披露目会

10月22日、布沢地区でJR東日本労働組合東京地方本部の「緑樹の家(旧荒井よね子邸)」お披露目会が開かれ、布沢住民など約40名が参加しました。

お披露目会で宮澤和広執行委員長は「この緑樹の家は只見線の復旧や地元活性化の活動拠点を目的に組合員やOBの有志で購入をしました。この美しい布沢を第二の故郷にしたいと思えます」と挨拶され、その後、荒井布沢区長の乾杯で祝宴が始まり、目黒町長と大塚経済文教常任委員長が祝辞を述べました。

今後、只見を外国人が訪れるモデル山村にする為、緑樹の家で農家民泊なども計画されています。



▲(写真/労組、布沢住民、関係者の皆さん)これまでDC只見を実施し、布沢の棚田の再生など地域活性化を図った労組の皆さん

只見高校進路講演会と懇談会を開催

10月1日、只見高校で生徒などに向けた進路講演会と、只見高校の振興対策懇談会が開かれました。

進路講演会は、(株)ベネッセコーポレーション菅野俊篤先生を講師に迎え、「人生の成功者は全て青春期に自らの可能性を本気で考えている」をテーマに進められ、授業に取り組む姿勢や進路希望を実現した生徒の実例などを講演頂き、参加した生徒や学校関係者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

講演会後の懇談会には地域の方や高校関係者が参加し、卒業生による講話や、地域に密着した魅力的な高校づくりについての意見交換などが行われました。



▲「人生の主人公は自分自身」と熱く説明する菅野俊篤先生

交流35周年を祝し

「永楽台地域記念式典・文化祭」開催

10月15〜16日、千葉県柏市永楽台近隣センターで、永楽台地域との交流35周年を祝した記念式典と同地域の文化祭が行われ、只見町や会津ただみ振興公社、地域おこし協力隊が参加しました。

15日の記念式典では、只見町を代表し岩瀬観光商工係長が「昭和56年から続く交流に感謝し、今後も末永いお付き合いをお願いします」と挨拶し、その後35周年の歩みが紹介され、歴史ある交流事業を互いに再確認しました。

16日の文化祭では、毎年恒例の物産販売や餅つき大会などを行い大盛況に終わりました。

今後も両市町の更なる発展の為に、交流事業を実施していきます。



▲永楽台地域の皆さんに大人気だった餅つき大会

今年は只見町で開催

歴史の道八十里越りレー講演会

10月9日、季の郷湯ら里で「歴史の道 八十里越りレー講演会」が行われ、町内外から約100名が参加しました。この講演会は八十里越りに関係する只見町・三条市・魚沼市をりレー形式で開催し、八十里越りに関する知識を共有し、交流を図ることを目的とし、今回は2回目の開催(前回は三条市で開催)となりました。

講演会では、県文化財課の轡田克史(くわだかつし)さんを講師に迎え、長谷部家文書を解説しながら当時の歴史を説明頂き、その後「八十里越馬子唄」の披露や、「未だへつなぐ歴史の道八十里越」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、来場者は真剣に聞き入っていました。



▲只見町、三条市、魚沼市、下郷町の文化財担当者がパネラーとして意見交換したパネルディスカッション

ユネスコスクール朝日小学校

第2回ESD公開授業研究会

10月28日、ユネスコスクールに加盟している朝日小学校で、東北コンソーシアム研究指定による「第2回ESD公開授業研究会」が開かれ、町内外から学校関係者などが参加しました。

この研究会は、ESD(将来にわたって持続可能な開発のための教育)を「持続可能な只見町の担い手を育てるための教育」と捉え、「つながりの中で育む只見愛」という研究主題を掲げ、公開授業・分科会・シンポジウムを通し取り組みを発表しました。特に町が抱える少子高齢化への対策として、将来に渡って地域を支える人材をどのように育成するか、参加した方々で研究を深めました。



▲(写真/5年生の公開授業)只見町の郷土料理を伝える為に、自分達ができることを考え、発信方法をみんなで提案しました

本格的な演劇を鑑賞

只見町「家庭劇場」を開催

10月11日、町教育委員会主催の家庭劇場が朝日小学校の体育館を会場に行われ、町内3保育所・3小学校の子どもたちや一般参加者など約300名が鑑賞しました。

今回の内容は、演劇集団遊玄社の方々による「イソップランドの動物たち」が公演され、「アリとキリギリス」や「ウサギとカメ」などイソップ童話で有名な物語を、短編劇で演じていました。子どもたちは、歌と踊りとリズムを織り交ぜた楽しい演劇に引き込まれ、会場内は笑いや拍手が起こっていました。そして劇の最後には、劇団員と子どもたちとの動物鳴き声対決が行われ、最後まで楽しいひと時を過ごしていました。



▲アフリカの打楽器を陽気に叩き、歌としゃべりで子どもたちを魅了した家庭劇場

稲刈り農業体験イベント

「KARIYASU`16 たぶん100人手刈り」を開催

5月に季の郷湯ら里前の田んぼに植えた稲を手刈りする体験イベント「KARIYASU`16たぶん100人手刈り」が、10月1日に同会場で行われ、町内外から多くの方が参加しました。

今回は「うまいもんまつり」と共催で行われ、参加者の皆さんは飲食会場(只見駅前)でうまいもんを食べ、体験会場(湯ら里前)でうまいもん作りを体験しました。そして体験会場では、日産自動車の協力により電気自動車の電源を利用して生搾りトマトジュースやポップコーンが作られ、参加者の皆さんに振る舞われました。



▲収穫後には旅行村でバーベキューを行い交流を深めました



▲大会に出場した選手の皆さん

只見町	0	7	0	0	6	1	14
塙町	0	0	0	5	2	8x	15 (6回時間切れ)

終盤に悔しい逆転負けで初勝利ならず 第3回 市町村対抗県 ソフトボール大会

10月15日、「第3回 市町村対抗県ソフトボール大会」が相馬市の相馬光陽ソフトボール場で開幕し、今回で2回目の出場となった只見町代表は、B球場で塙町代表と対戦しました。只見町は2回に7点を先取し、その後も攻め続け6回までに大量14点を取りました。しかし、時間制限により最終回となった7点リードの6回、塙町の集中打により一挙8点を取られ、14-15で悔しい逆転サヨナラ負けを喫しました。

この悔しさをバネに、来年初勝利を目指します。

仲間と楽しく過ごす時間

「お楽しみ昼食会」を開催

10月25日、季の郷湯ら里で只見町社会福祉協議会主催の「お楽しみ昼食会」が行われ、一人暮らしなどの高齢者約110名が参加しました。

この昼食会は、一人暮らしの高齢者などを招待し、温泉に入ったりボランティアの方と会話したり楽しんで頂くことを目的に開催され、只見町赤十字奉仕団約40名の皆さんがボランティアにあたりました。参加者はあたたかいおもてなしに笑顔になっていました。



▲踊りやカラオケなどで盛り上がったアトラクション

体験型観光に携わる関係者が全国から南会津の地に集結 「全国ほんもの体験フォーラムin福島・南会津」

10月28～30日、南会津郡4町村(只見町、南会津町、下郷町、檜枝岐村)の合同で「第13回全国ほんもの体験フォーラムin福島・南会津」が開催され、体験型観光などに取り組む方約700名が全国から参加しました。

これは体験型観光に取り組む関係者などが全国各地から集まり、先進的な取組みを紹介しながら情報を共有し、更なる発展を目指すフォーラムで、28日は南会津町の御蔵入交流館で「全体フォーラム」、そして下郷町の会場に移り「情報交換会」が行われ、29日は4町村の会場別に課題別研究分科会を行い、29～30日にかけて「体験型見学会」ツアーが実施されました。

只見町の分科会は季の郷湯ら里で「農山漁村の活性化は体験交流で」をテーマにパネルディスカッションが行われ、約100名が参加しました。受け入れの裏話や、先進地の取組みなど踏み込んだ内容が話され、メモを取りながら聞く来場者の姿が見られました。



▲初日の情報交換会で、只見のPRとして全国の方々に振る舞われた「トマトトーン」



▲全国の受入団体がパネラーとして参加したパネルディスカッション

只見中学校で統合開校10周年記の紅葉祭 只見・明和小学校で学習発表会

10月、只見中学校で紅葉祭、只見・明和小学校で学習発表会が行われ、児童・生徒の発表を一目見ようと多くの保護者や地域の方々が訪れていました。

只見中学校の紅葉祭では、今年で統合開校10周年を迎え、記念式典が行われました。その後、英語弁論発表・総合学習発表・合唱・有志発表なども行われ、日頃の学習の成果が披露されました。また、只見・明和小学校の学習発表会では、劇や合唱などが披露され、今まで学習した内容を自分達の創作で発表したり、「丹羽族」にスポットをあてた河井継之助の歴史などが発表され、どれも訪れた人を感動させる素晴らしいものでした。訪れた保護者からは「感動で涙がでました」という声が聞こえてきました。(朝日小学校の学習発表会は、11月12日に行われる予定です。)



▲(写真/22日開催の只見中)全校合唱の様子



▲(写真/23日開催の明和小)1年生の劇「スイミー」の様子



▲(写真/29日開催の只見小)6年生の劇「命の種もみ」の様子

広報ただみ診療所

朝日診療所
所長 若山 隆



「インフルエンザワクチン体制について」

今回は只見のインフルエンザワクチン体制のお話をさせていただきます。

インフルエンザは、高熱・体の節々の痛み・咳などの症状を引き起こし、通常の風邪に比べひどくなりやすく、さらに他人に伝染する力も強いです。抵抗力の弱い乳幼児や高齢者にとっては命にかかわることもあるため、ワクチンが開発されています。有効性については、文献により多少幅がありますが、感染の危険性を半分以下に下げられると考えられています。できるだけ多くの人にワクチンを受けてもらいたいと考えています。

ワクチンは、只見では保健福祉センター「あさひが丘」での集団接種で提供しています。集団接種予定日については、10月中にお知らせばんで配布された日程表を確認ください。不明な点があれば只見町保健福祉課(TEL:84-7005)まで確認してください。

しかし、特別な事情のため集団接種でのワクチンが困難な方もおられると思います。そんな特別な事情(歩行が困難、自力での施設来所が困難で付き

添いが必要等)がある場合、朝日診療所の定期的な受診時にワクチンの個人接種にも対応いたします。その場合、保健センターではなく、朝日診療所(TEL:84-2221)に電話でご相談ください。原則的には個人接種は定期的に受診されている方のみですが、集団接種が終了する12月9日以降はインフルエンザワクチン個人接種のみ希望の方にも午後に限って予約のある方のみ対応させていただきます。

しかし、朝日診療所では具合の悪い方の対応を優先するため、個人接種は待ち時間もかかることがありますので、できるだけ集団接種で受けていただくようご協力をお願いいたします。

◆診療所でのワクチン接種

	条 件	時 間
定期通院時の個人接種	特別な事情あり(歩行困難、付き添いが必要など)。予約が必要。	11月～ 12月末まで 定期受診時
個別接種のみ	集団接種にどうしても参加できない。予約が必要。	12月9日～ 12月末まで 午後2時～ 午後3時

地域おこし協力隊として vol.24

空き家活用促進隊
大竹 康平



「普通が特別」

只見町地域おこし協力隊、大竹康平です。待ちに待った只見町空き家バンクが、もうまもなく設立になります。空き家をお持ちの方も、空き家に住みたいという方も、ぜひご利用ください。そうでない方も、インターネットで「只見町空き家バンク」で検索してみてください。

さて、これから厳しい冬を迎えますが、私の地元は年に1、2度雪が降る程度なので、大雪の中での生活は初めてです。今冬はどのくらい降るでしょうか。只見町にとって大雪は当たり前でも、私にとっては初体験で、わくわくしたり不安になったりしています。

只見町で「当たり前」や「普通」、あるいは「欠点」と思われていることが、よその人にとっては「特別」で「魅力的」であるということが数多くあります。その点では冬場の大雪も、交通の不便さも、増えている空き家も、見方を変えれば「特別な魅力」になり得るものだと思います。

先月、只見町駅伝に出場したのですが、沿道から「協力隊がんばれ!」という声援を頂き、「顔を覚えて貰っている!」と嬉しかったです。ご声援ありがとうございました。

1年という短い任期も残すところあと半分、精一杯頑張ります。これからもよろしく願いいたします。

町史

とっておきの話

268

只見町総合政策課

中野 陽介

只見ユネスコエコパークがめざすもの①

▼今月号から六回の連載で、ユネスコエコパークを特集します。
▼執筆は、担当者で森林生態学に造詣の深い中野陽介さんです。

▼只見ユネスコエコパークを詳しく具体的に紹介していきます。



▲豪雪が育んだ自然環境と伝統的な生活・文化が認められた只見ユネスコエコパーク

只見町とユネスコエコパーク 二〇二四年六月、只見町の全域と檜枝岐村の一部地域が、ユネスコ（国連教育科学機関）から「只見ユネスコエコパーク（Tadami Biosphere Reserve）」に登録されました。この地域が豪雪に特徴づけられた豊かな自然環境と生物多様性をもつとともに、その自然環境に育まれた伝統的な生活・文化や歴史が残る地域であると国際的に認められたということ。これは、ぜひ町民の誇りと自信にいただきたいと思えます。しかし、登録は最終目的ではありません。ユネスコエコパークを枠組みとした「豪雪に育まれた自然環境、生活・文化を守り、活かす」精神のもと、過疎高齢化の中にあっても持続的な地域の堅持と発展をめざそうとする町の決意と覚悟でもあるのです。この目標を達成するためには、登録による

一過性の効果ではなく、五年、一〇年先を見すえた、地道で、継続的な取り組みが重要となります。ユネスコMAB（マブ）計画とユネスコエコパーク ユネスコエコパークは、「人間と生物圏（Man and the Biosphere：略称MAB）計画」の中心事業である「生物圏保存地域（Biosphere Reserve：略称BR）」のことで、産業革命以降、人間の活動が自然環境を破壊・変質させ、われわれ人類を含む生物全体の生存基盤を脅かしてきました。そこで、一九七〇年、ユネスコが人間と生物圏（生物が存在する領域）と調和が取れた関係を築き上げるための調査・研究や情報交換を行う多国間協力事業として立ち上げたのがMAB計画です。生物圏保存地域は、自然環境と生物多様性の保護・保全を図り、自然環境と資源を持

続可能な形で利活用することによって地域社会の経済的発展を目指すモデル地域として、一九七六年に開始されました。日本ではより親しみを持ってもらうために「ユネスコエコパーク」と呼ぶことが日本ユネスコ国内委員会により決定されています。

ユネスコエコパークの三つの目標

ユネスコエコパークの目的である「人と自然との共生」を実現するために三つの目標があります。①自然を守りましょう、②地域資源を絶やさず活かしながら地域社会を発展させましょう、③これらを達成するために学術調査と研究をすすめる人材を育成しましょうというものです。また、この三つの目標は、互いに独立しているのではなく相互に補完するものです。

只見町がユネスコエコパークに取り組む背景と経過

過疎高齢化が進む只見町では、地域社会の衰退が危ぶまれていました。そうした中、二〇〇二年から三か年にわたり河野昭二京都大学

名誉教授を中心にブナ林の総合学術調査が実施されました。その結果、只見町のブナ林の学術的な価値が初めて明らかになりました。その後、只見地域が世界遺産検討委員会内で国内候補地の一つとなりました。また、世界ブナサミットも二度にわたって開催し、ブナを軸とした様々な施策が展開されました。二〇〇六年には、「ブナと生きるまち、雪と暮らすまち」という表題で第六次只見町振興計画が策定されます。いままでの都市に追従する地域振興とは決別し、町の特性を活かした施策が打ち出されたのです。翌二〇〇七年には「自然首都・只見」が宣言され、「只見町ブナセンター」が発足しました。しかし、二〇一一年、福島原発事故が発生、続いて新潟・福島豪雨が町を襲います。そこで懸案の過疎高齢化と災害復興に取り組むなかから、ユネスコエコパークを選択し登録作業へと動き出すことになりました。その後、様々な手続き、障害を乗り越えて、只見ユネスコエコパークが誕生したのです。



町民文芸

只見短歌会

九月詠草

大塚栄一

指導

縁に出て足の爪切る透析の夫の背またも小さく見ゆる

古川 英子

絶へ間なく地から湧く如き虫の声かはたれ時の庭は涼しき

小倉キミ子

年ごとに縁者増えゆく秋彼岸香華の中に在りし思ふ

渡部ゆき子

逝きし娘の好みし花の秋海棠色濃く咲けば仏前に活く

馬場 八智

旅姿時代劇に見る杖と笠田の畔歩む媪は似たり

新国由紀子

喜寿迎へ生かさされしことに感謝のみ同級会に友と交はる

関谷登美子

童心に戻りし如き面差し友我を見ず花に寄りゆく

目黒 富子

またひとつ夏の休みの恒例のラジオ体操の放送は消ゆ

渡部ヨリ子

臥す部屋に野菜を刻む音ひびくわが若き頃の日課の如く

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

十月例会

目黒十一

指導

蔦茂るいだきて隠す大薫家

味代子

背を押して遊ぶ風あり野分かな

新涼や髪切り手添え老いの霜

このところ雨容赦なし貝割菜

膝元のさみしくなりぬ秋彼岸

つんと香の胸つく早稲の刈田道

秋あかね姉妹のように戯れて

ゴンドラに乗りてすんなり秋の来る

我が影や冷たく長く秋の夕

酒瓶を持ちて出掛ける夕月夜

コンバイン洗う男の夕日かな

産土の谷より生れし秋の雨

一穂

一夜にて玉蜀黍は獣の餌

赤子抱く様に舞茸貰い受く

老战友とかたき握手や土瓶蒸し

隣組の秋の行楽車列組む

落鮎の尾鱗に塩の姿焼き

秋雨に軒先借りて奈良井宿

ヒヨドリが鳴くや朝餉の旅の宿

仲秋やだんご不揃いまんまるに

立ち話し短かく長し秋の雨

今月の お知らせ

お知らせ

福島県調停協会連合会より
無料調停相談会のお知らせ

相続・遺産分割、離婚、扶養等家庭内の問題、金銭トラブル、土地・建物の紛争、交通事故による損害賠償の問題などでお困りの方は、調停委員がご相談に応じます。

●会場及び開催日時

①御蔵入交流館

11月14日(月)

午前10時～午後3時

②会津若松市民センター

11月23日(水)

午前9時30分～

午後6時30分

●お問合せ先

福島地方家庭裁判所総務課

☎024(534)2194

電話番号

総合政策課	地域振興係 財政係	☎82-5220
総務課	総務係 職員係	☎82-5210
町民生活課	税務係 町民係	☎82-5110 ☎82-5100
保健福祉課	保健係 福祉係	☎84-7005 ☎84-7010
農林振興課	農政係 林政係	☎82-5230
観光商工課	観光係 商工係	☎82-5240
環境整備課	地域整備係 生活環境係	☎82-5270 ☎82-5280
会計室		☎82-5120
議会事務局		☎82-5300
農業委員会		☎82-5230
教育委員会		☎82-5320
学校給食センター		☎84-7180
只見保育所		☎82-2219
朝日保育所		☎84-2038
明和保育所		☎86-2249
朝日診療所(歯科)		☎84-2221 ☎84-2612
訪問看護ステーション		☎84-2130
こぶし苑		☎84-2101
只見振興センター		☎82-2141
朝日振興センター		☎84-2111
明和振興センター		☎86-2111

「国の教育ローン」
日本政策金融公庫のご案内

「国の教育ローン」は、高校、短大、大学、専修学校、各種学校や外国の高校、大学等に入學・在學するお子様をお持ちのご家庭を対象とした公的な融資制度です。

●融資額

お子様1人につき

350万円以内

●金利

年1・9%

※母子家庭の方など

年1・5%(10月13日現在)

●返済期間

15年以内

※母子家庭の方など18年以内

●HP

「国の教育ローン」で検索

●お問合せ

教育ローンコールセンター

☎(0570)008656

(ナビダイヤル)

☎03(5321)8656

法務局より休眠会社・法人の整理のお知らせ

法務局では、休眠会社・法人の整理作業を行います。

●休眠会社・法人とは

①最後の登記から12年を経過している株式会社(特

例有限会社は含まれません)

②最後の登記から5年を経過している一般社団法人

又は一般財団法人(公益社団法人及び公益財団法人を含みます)

平成28年10月13日(木)付け

で法務大臣による官報広告が行われ、平成28年12月13日

(火)までに「まだ事業を廃止していない」旨の届出又は登記の申請をしない限り、解散したものとみなされ、登記官が職権で解散の登記をします。なお、ご不明な点はお問合せ下さい。

●お問合せ先

福島地方法務局

法人登記部門

☎024(534)1904

法務局ホームページ

☐<http://www.moj.go.jp/>

MINJI/minji06_00082.html

税 今月の納期

11月25日までに

納めましょう

- 町県民税(3期)
- 国民健康保険税(5期)
- 後期高齢者保険料(4期)
- 介護保険料(5期)
- 農集排使用料(11月分)

只見おもしろ学クイズ

今回は只見おもしろ学クイズ中級編のクイズです。

(問題)

只見町にある福島県の天然記念物は次のどれですか。

- ①比良林のサラサドウダン
 - ②黒谷のオオコブシ
 - ③唱平のアカミノアブラチャン
 - ④檜戸のケヤキ
- (答えは19ページです)



フナリン

U・X新潟テレビ21のテレビ収録 第1回「峠」王クイズ選手権大会

10月30日、「峠」王プロジェクト実行委員会（事務局：U・X新潟テレビ21事業開発局）が主催の特別番組「第1回峠王クイズ選手権」が開催され、只見町も番組の舞台となりました。

この番組は、司馬遼太郎没後20年企画で、河井継之助を主人公にした歴史小説「峠」をテーマに、戊辰戦争ゆかりの地を巡りながらクイズを行い「峠」王を目指す大会で全国から約130名が参加しました。只見町も予選会場の一つとして河井継之助記念館でクイズが行われ、同館運営委員の新国勇さんが解説を務めました。番組MCは林修さんなどが務め、今回収録したクイズ選手権の様子は後日、U・X新潟テレビ21で放送される予定です。



▲約15名が参加した只見町予選会、決勝は長岡市で行われました

町長の手帳

町長スケジュール 〈10月分〉

- 1日 水の郷うまいもんまつり、只見高等学校振興対策懇談会
- 4日 歳時記の郷・奥会津展オープニングセレモニー（仙台市）
- 9日 歴史の道八十里越・リレー講演会
- 11日 内堀知事講演会（会津若松市）
- 13日 JR只見線の復旧及び復興を支援する会会長他来庁
- 14日 県道小林・館ノ川線改良促進期成同盟会県要望（南会津庁舎～県庁）
- 16日 第54回只見町駅伝競走大会
- 17日 福島県鉄道活性化対策協議会JR東日本新潟支社要望活動（新潟市）
- 18日 八十里越道路工事進捗状況視察・交流懇談会（三条市）
- 20日 しあわせ金婚夫婦表彰式
- 22日 只見中学校第10回紅葉祭、「緑樹の家」竣工披露
- 23日 南会津地方環境衛生組合採用候補者2次試験（下郷町）
- 25日 只見町社会福祉協議会お楽しみ昼食会
- 26日 エコパーク連絡調整会議
- 27日 自由民主党福島県議会議員会移動政調会、ESD教育交流会
- 28日 畠副知事との昼食会、ほんもの体験フォーラムin福島・南会津（南会津町）
- 29日 ほんもの体験フォーラムin南会津「課題別研究分科会」
- 30日 只見地区JAまつり
- 31日 南会津地方広域市町村圏組合管理者会・町村会理事会（南会津町）、防衛白書説明、東北地方整備局長講演会・懇親会（会津若松市）

「ほんもの体験による感動を農家民泊で」

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」秋の天候不順とぬかるむ田んぼで作業の方が心配されたが、出来具合は質・量ともに良好とのこと。トマトも目標の10億円台に乗り、生産者にとってはうれしいことだ。一方では、TPP法案が承認されそうな様子で、条件不利地における水田農業は大きな痛手を受けることになる。

井上ひさし氏が「水田をつぶして何の農政か」と言った言葉が浮かぶ。年々「米」の消費が減っている。今20才代の若者で、1ヶ月間米を食べない人は16%、米を食べる頻度が週1回未満も9%で、合計25%になるということらしい。食べない理由は、ご飯を炊くのが面倒で女性は特にダイエットが理由らしい。それでもお米はおいしいので、“おにぎり”は人気があるようだ。食べるということは腹を満たせば良いというものではなく、食は幸せで豊かな人生の要だと思ふ。農産物ははじめ生命を頂くということは、食料生産が手間ひまかけて他の生き物との共存も大事にしながら生産されるということが理解されなければ、農山漁村の立つ瀬がない。

先日、全国ほんもの体験フォーラムが開催された。農山漁村が農家民宿や民泊を通して都会の子ども達を教育旅行で召致することの大切さが報告された。動植物ははじめ生命あるものに関わることで、現場で生産する人達と交流することがいかに大切なことか。町内でも農家民泊の受入が現在30数軒あるが、是非とも更に増えて欲しいと思う。ほんもの体験による感動こそが、今の子ども達には必要だ。

只見町長 目黒 吉久

町民の消息

(9月26日～10月25日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

星 湊人 (男/圭・友美) 二軒在家
星 樹璃 (女/毅・希美) 大倉

■ご結婚おめでとうございます

只見 鈴木 徹♡飯塚 利沙 東京都

■おくやみ申し上げます

酒井 慎 佐	96歳	塩 沢
堀金 千恵子	74歳	福 井
船木 イクヨ	92歳	長 浜
吉津 栄	88歳	黒 谷
大竹 貫一	84歳	只 見
五十嵐 日出男	82歳	長 浜
鈴木 章 公	58歳	榎 戸
鈴木 貞 子	88歳	長 浜
馬場 隆 子	94歳	長 浜

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成28年10月1日現在

人口 4,400 (－ 5)
男 2,155 (－ 1)
女 2,245 (－ 4)
世帯数 1,816 (+ 3)
高齢化率 44.80%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 4 転出 5 出生 3 死亡 7

あとがき

▽11月27日に開催される福島放送・東邦銀行「ふくしまの元気！応援CM大賞2016」に、只見町のCM作品がエントリーします。

今回のCMは只見町観光まちづくり協会の皆さんが製作し、地元の人々にとってあたりまえの風景が、他の人にとっては珍しいと映る部分を、地元農家さんの日常を通して紹介しています。当日は審査会（公開収録）が行われ、その模様は12月後半に放送される予定です。どうぞご覧下さい。

(三瓶)

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

町民憲章

生涯学習推進員
湯田千穂

明和振興センター
図書室 ☎86-2111

おすすめ新着図書

★陸王



池井戸潤/著(集英社)

1人のヒーローを描くのではなく、ヒーローを目指して努力する人々が主人公の物語です。登場人物たちの物づくりへの愛が満ちていて、読み終わると普段は縁もない足袋にすら愛着を感じさせてしまう本です。多くの方に勇気を与えてくれるオススメの本です。

★慈恵大学病院のおいしい大麦レシピ



東京慈恵医科大学部附属病院 栄養部/著・発行

麦は健康にいいのはみなさんご損じだと思いますが、大麦の料理となるとあまり知らないと言う人がたくさんいます。でもこの本なら、大麦のすごさとおいしく食べられるメニューがたくさん載っているのでオススメです。

★その他、別棟、図書室(旧支所)にもたくさん本を置いております。利用時間は午前9時から午後4時までです。(土日祝日は閉館) ぜひご利用下さい。リクエストも随時受付しています。



只見おもしろ学の
答え合わせ!!

17ページクイズ答え
①比良林のサラサドウダン
だよ!!
詳しくはガイドブック
40Pを見てね♪

フナリン

ゴジュウカラ (学名: *Sitta europaea*)

[スズメ目 ゴジュウカラ科]



▲左1本が後趾、
右3本側が前趾

▲ゴジュウカラは趾(あしゆび)だけで木の幹にしっかりとしがみつく

ゴジュウカラは、集落の裏山から沼ノ平まで林内で見ることが出来ます。全長約 14 cm とスズメほどの大きさの鳥で、只見町には一年を通して生息しています。目に黒い過眼線があり、頭と背が灰色、のどから腹が白、脇腹が淡い橙色とシンプルな色合いです。繁殖期に

は、口笛で呼びかけるような「ピーー ピーー ピーー」や早口で「ピピピピピ」とよく通る声でさえずりをします。

枯れ木立の中を歩いていて、カサ、カサと軽い物音がしたら立ち止まってみましょう。小さな鳥が、垂直な幹の上を動き回っていたらゴジュウカラです。キツツキ類も幹に垂直にとまりますが、尾羽で体を支える点、趾(あしゆび)が前後 2 本ずつになっている点で特殊化しています。しかしゴジュウカラは、尾羽を使わず、趾は多くの鳥と同じく前 3 本、後 1 本で、後ろ趾とそのツメが発達しています。聞こえた物音は、ゴジュウカラが幹にツメを立てる音です。幹の上を回り歩きながら、ピンセットのような細くとがったくちばしを樹皮の隙間などに差し込み、昆虫やクモなどをつまみだして食べます。秋には「チー チー」と、か細い声で鳴きます。11 月は、木々が葉を落とすので、林にくらす小鳥類の観察にうってつけです。

企画展

「伝統を編む人々～只見町とボルネオ島と」

期間：2017年2月13日(月)まで ※開催中

ブナセンター講座

「豊かな熱帯林が支えるボルネオ先住民の暮らしと文化～ラタンのカゴ編みを通して～」

日時：12月10日(土) 13:30～15:00

講師：竹内 やよい(国立環境研究所)

町外展

「自然首都・只見」展 下郷町会津ジイゴ坂学舎

期間：11月9日(水)～20日(日) ※木曜定休日

時間：10:30～16:00(9日は12時開始、20日は15時終了)

会場：会津ジイゴ坂学舎(入場無料)

講演会

「只見町の自然と暮らし」

日時：11月13日(日) 13:30～15:00

講師：河原崎里子・遠藤菜緒子(只見町ブナセンター)

「自然首都・只見」に込められた思い

日時：11月19日(土) 13:30～15:00

講師：小沼 昇(只見町ブナセンター友の会代表・元只見町長)

鈴木 サナエ(只見町ブナセンター友の会副代表)

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください